

立位疲労軽減シューズ

スタンド・イーズ

stand·ez

評価データ



 **DUNLOP**
REFINED

 HIROSHIMA KASEI, LTD.

DUNLOP REFINED (ダンロップリファインド) は、
住友ゴム工業(株)の登録商標です。



製品紹介 (新商品 2025 年秋冬モデル)

製品名	DUNLOP REFINED stand·ez (ダンロップリファインド スタンドイーズ)			
概要	日常生活における立ち仕事や行列待ち、イベント参加など 長時間の立位による疲労を軽減 するシューズです。			
品番	DC1022	DC1023	DC1513	DC1514
製品	 BLACK  SAND	 BLACK  GRAY  NAVY	 BLACK  OFF WHITE  D-GRAY  VIOLET	 BLACK  GRAY  NAVY
サイズ	24.5～27.0・28.0cm	24.5～27.0・28.0cm	22.0～25.0cm	22.0～25.0cm
価格	税込 ¥6,490 (本体価格 ¥5,900)			
発売時期	2025年8月			

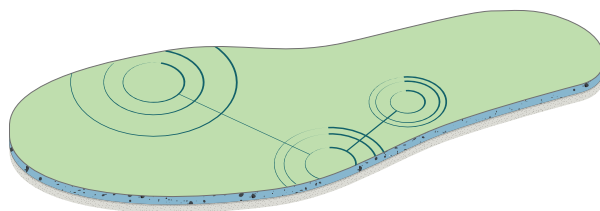
製品の特徴

スタンディーズの立位疲労軽減機能は、インソール・ミッドソール・アウトソールそれぞれに独自の工夫を施し、“快適性”と“機能性”を高めています。

<インソール>

U Float Insole

ダブルフロートインソール

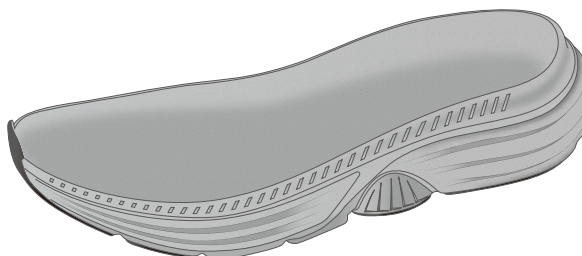


高反発と低反発素材を組み合わせた2層の極厚インソールが、クッション性と安定性を両立し、足底圧を分散して脚への負担を軽減します。

<ミッドソール>

mellow FOAM

メロウフォーム

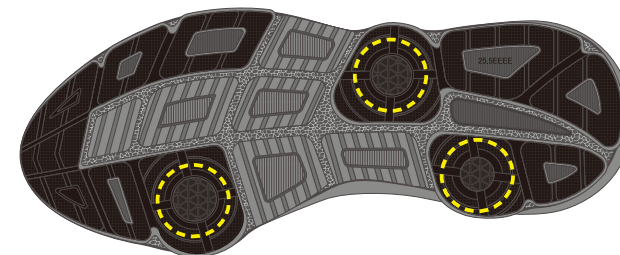


形状設計と連動した特殊配合 EVA 素材を採用し、軽量性・弾力性・安定性を最適化。2層式インソールとの相乗効果で足ブレを抑えつつ、脚部への負担を軽減します。

<アウトソール>

TRIPLE CORE

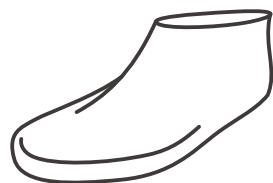
トリプルコア



載距突起・立方骨・第一中足骨種子骨を支える三点支持構造を鞋底に採用した当社特許技術により、過剰回内を抑え、足骨バランスを整えることで、安定した立位と快適な歩行を実現します。

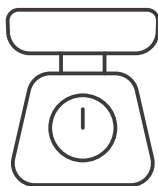
幅広いニーズに応える副機能

また、主機能に加え幅広いユーザーのニーズに応えるべく、主機能の他さまざまな機能を設計に盛り込んでいます。



ノンストレスラスト設計

4E設計ながら、適度なフィット感とつま先のゆとりを確保したラスト形状。



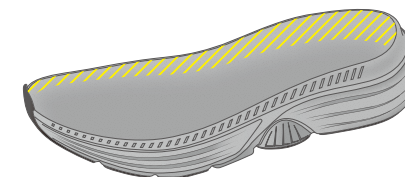
軽量性

重厚な外観に対し、独自配合のEVA素材で軽量化を図り、着用時の負担を低減。



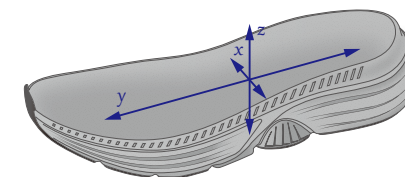
フレックスデザイン

厚底構造でありながら柔軟な屈曲性を備え、歩行や屈伸動作時の負担を低減。



アッパーサポート設計

ソールの壁構造によりアッパーを支持し、ブレ抑制とフィット性を両立。



ナチュラルバランス設計

安定性を確保しつつ、自然な重心移動を促すヒールドロップ設計で姿勢変化を支援。

■長時間の立位による課題

長時間立っていることによる主な悩みには、以下のようなものがあります。

■足の疲労

立っている間、足の筋肉（特に足裏、ふくらはぎ、太もも前面）は常に微細な緊張を強いられ、体のバランスを維持しています。時間が経つにつれて筋肉に疲労物質が蓄積し、血流も滞ることで、脚に張りやだるさを感じるようになります。こうした疲労を軽減するには、身体を安定して支える「支持性」と、筋活動を補助する「構造的サポート」を備えた靴の設計が重要です。

■痛み・だるさ

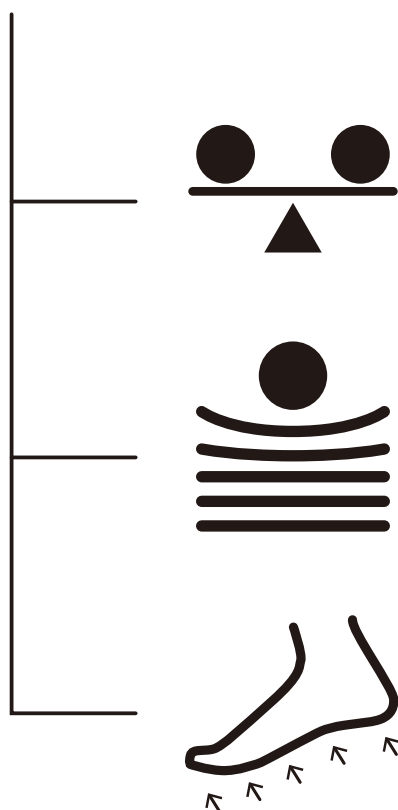
立位中、踵や母趾球など足裏の一部に荷重が集中し、時間の経過とともに皮下組織や関節に負担がかかります。また加齢に伴って足底の脂肪厚みや弾性が低下すると衝撃吸収力が損なわれ、痛みやだるさを引き起こしやすくなります。これを防ぐには、アーチサポートやクッション材によって足底圧を分散させ、足裏全体で体重を支える靴の設計が重要です。

■その他、ムレ、浮腫み、腰痛など・・・

■立位時の悩みを解決する 3 要素

立位による悩みの中でも、特に足の疲労・痛み・だるさの軽減に着目し、以下の3つを“課題解決の要素”として設定し、製品開発と設計の指針としました。

□疲労軽減 (疲労・痛み・だるさ)



□安定性

- ・足をしっかり支え、不要な横ブレや姿勢の崩れ防止
- ・下肢筋群の過度な緊張を抑え、バランス保持の負担を軽減

□クッション性

- ・踵部や前足部にかかる衝撃を吸収し、関節や筋肉への負担を緩和

□足底圧分散

- ・体重を足裏全体に分散し、局所的な圧迫や痛みの発生を防ぐ

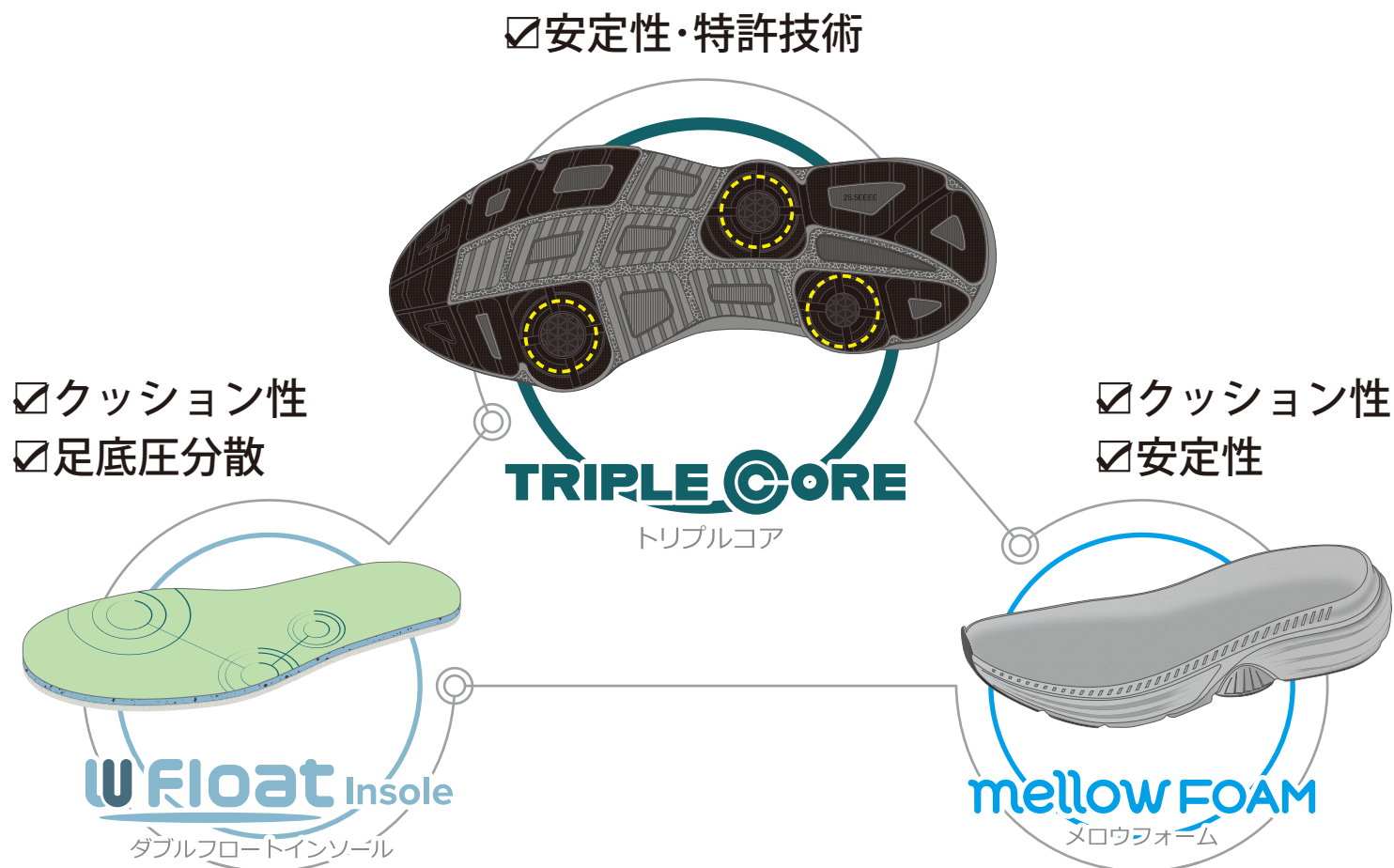
02 stand·ez 立位時の課題と解決要素

DUNLOP
REFINED

HIROSHIMA KASEI, LTD.

■ 疲労軽減に寄与する三つの設計要素

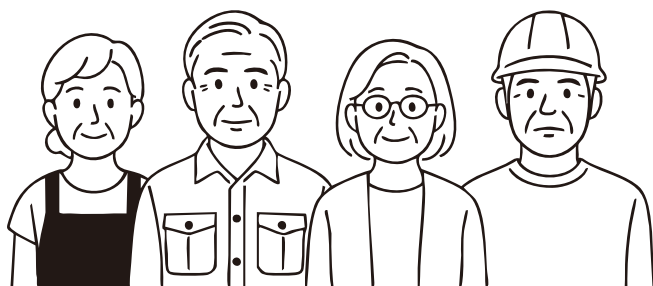
完成したスタンドイーズの立位疲労軽減機能を構成する要素として、当社が保有する歩行や立位時の安定性を高める特許技術を核に、インソールおよびミッドソール、“3つの要素を最適化”することで、長時間の立位に伴う身体的負担の軽減を実現しました。



■ 高齢就業層の働き方に即した製品へのニーズの高まり

開発に至った経緯として、高齢者の就労継続が進む社会背景の中で、立ち作業など身体的負担の大きい働き方が増加傾向にあり、そのような人たちに向けた製品の必要性が高まっていました。

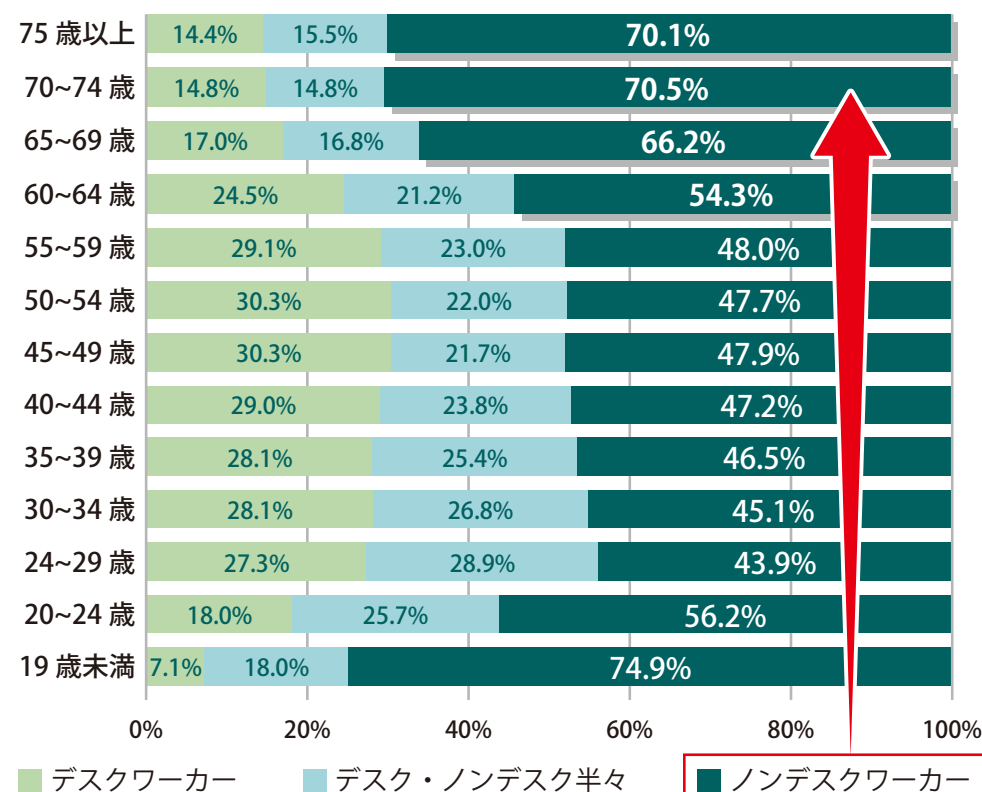
年齢階層別就業率の推移



年齢	2013 年の就業率	2022 年の就業率
60~64 歳	58.9%	73.0%
65~69 歳	38.7%	50.8%
70~74 歳	23.3%	33.5%
75 歳以上	8.2%	11.0%

出典：総務省「労働力調査」

就業者の業務スタイルにみる年齢階層別傾向



出典：総務省「令和 2 年国勢調査」

見落とされがちな“立位”への着眼

しかし、多くの靴は歩行や走行時の機能性を重視していますが、長時間“立つ”という動作に特化した製品はあまり見られません。そこで、**長時間立ち続ける環境に着目し**、そこで生じる悩みの解決を目的とした製品開発に至りました。



03 stand·ez 開発の背景から仕様決定までのプロセス

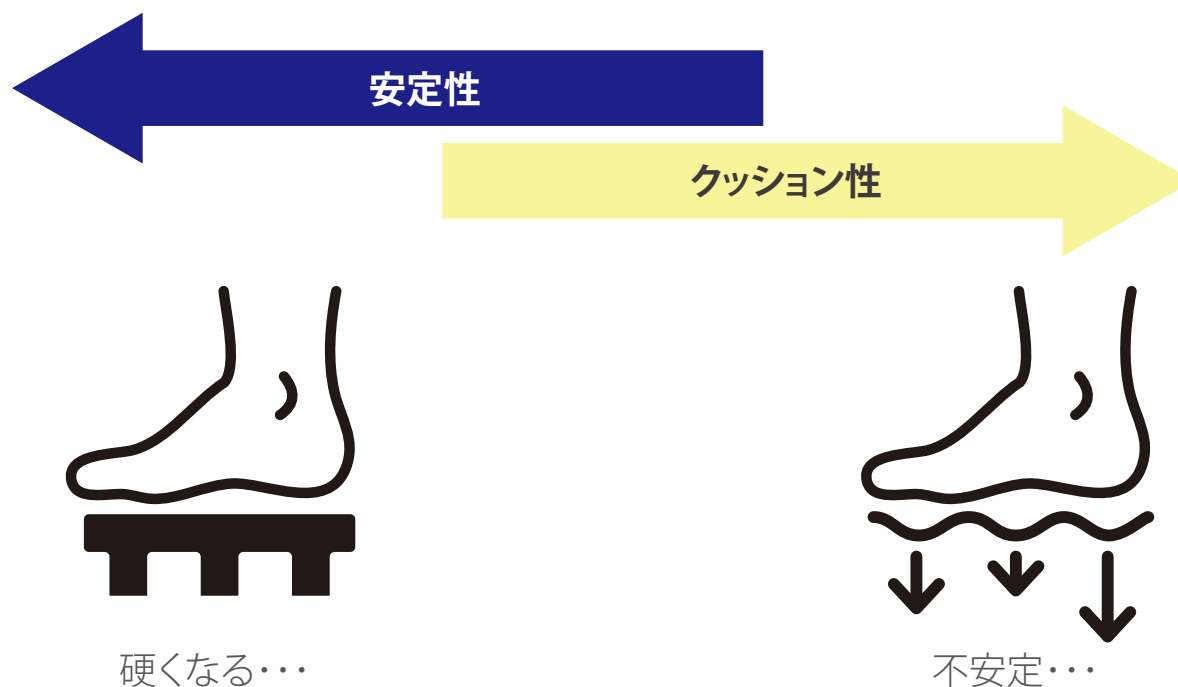
DUNLOP
REFINED

HIROSHIMA KASEI, LTD.

■ 相反する要素を両立するという設計課題

製品機能の設計については、「安定性」「クッション性」「足圧分散」の要素を最適化することを目指しました。

しかし、一般的な靴の構成においては、安定性は「硬さと支え」によって実現される一方で、クッション性（やわらかさ）は、「揺れ」や「沈み」を生むため、両者は**“相反する要素”**とされており、その両立には工夫が必要でした。



03 stand·ez 開発の背景から仕様決定までのプロセス

DUNLOP
REFINED

HIROSHIMA KASEI,LTD.

■「機能性」と「第一印象」の連動

また長時間の立位を想定した機能は、履き続けることで実感される特性を持つため、消費者の購買動機に繋がるような、**「機能性」と「第一印象」が連動する設計**も重視しました。



柔らかいマットの上に
ずっと立っている感覚



『雲の上』に立っているような
クセになる履き心地

03 stand.ez 開発の背景から仕様決定までのプロセス

初期のアイデアと構想

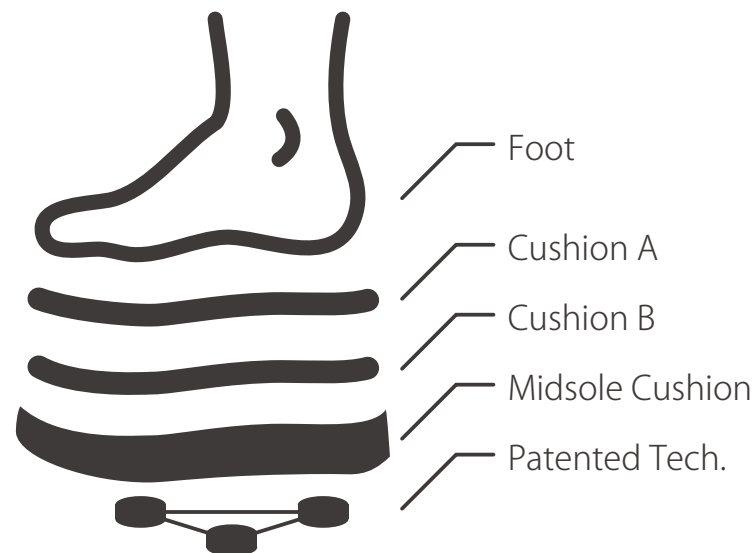
開発のヒントとなったのは、レジやキッチンに敷かれる疲労軽減マットに見られる、「柔らかさ」と「支えられる感覚」の両立でした。この快適性を靴単体で再現するため、内部構造をミルフィーユのような積層構造として捉え、異なる素材特性の組み合わせと、当社の特許技術を組み合わせることで、相反する要素の両立と機能の最適化を図りました。



Memory Foam Mat



Layered Structure



機能実現へのヒント

靴内構造の多層設計

04 stand.ez 疲労軽減性能の多角的な評価試験



HIROSHIMA KASEI,LTD.

各種試験の構成と概要

最終仕様における立位疲労軽減性能の検証にあたり、外部および社内での評価試験を組み合わせ、多角的な実証を試みました。各試験の目的と構成は以下の通り。

データNo.	試験区分	試験名	目的
評価データ1	外部試験	主観的負担度評価	脚部の主観的な疲労感の定量化(Borg Scale)
評価データ2	外部試験	靴の主観評価	クッション性・安定性・ホールド感の得点化(VAS Scale)
評価データ3	外部試験	下腿周囲長計測	下腿周囲長変化の観察
評価データ4	外部試験	重心動揺計測	床反力計による足底圧中心の計測
評価データ5	社内試験	足圧分布計測	立位時の足底圧の荷重値と面積の測定

04 stand.ez 疲労軽減性能の多角的な評価試験

主観的疲労・痛みの評価指標（Borg スケール）

Borg Scale (category-ratio scale; CR-10)

スコア	程度
10	極端に強い(ほとんど最大)
9	
8	
7	大変強い
6	
5	強い(重い)
4	
3	中くらい
2	弱い(軽い)
1	大変弱い
0.5	極端に弱い(少し気が付く程度)
0	全くない

Borg G.A.: Psychological bases of perceived exertion.
Med.Sci.Sports Exerc. 14: 377-381, 1982.

主観的負担度評価 (評価データ 1) – 結果と考察

- 図1(P. 20)に各部位における主観的な身体負担度(Borgスコア)の結果を示す。
- 得られたBorgスコアが正規分布に従うかについて、シャピロ・ウィルク検定を行った結果、どの部位においても $p < 0.05$ 以上であり、正規分布に従うとはいえないため、以下の手順でノンパラメトリック検定(整数ランク変換 (ART))を実施した。整数ランク変換 (ART) 後のデータに対して、靴条件と時間条件を要因とする二元配置の分散分析を実施し、主効果並びに交互作用に有意な結果が出たケースにおいて下位検定(Wilcoxon順位符号付き検定)を実施した。
- 足部、下腿、大腿及び腰部にて靴条件、並びに時間条件の主効果を得た。前出の4つの部位において従来品[Cnv]は開発品[New]よりBorgスコアが有意に高く、時間が経過するにつれBorgスコアが有意に高くなる結果であった(図1)。
- 下腿部で靴条件と時間条件の交互作用が有意であった。交互作用が有意であった下腿部において、下位検定の多重比較を実施した結果、30分以降で従来品は開発品よりBorgスコアが高い傾向にあった($p < 0.10$)。

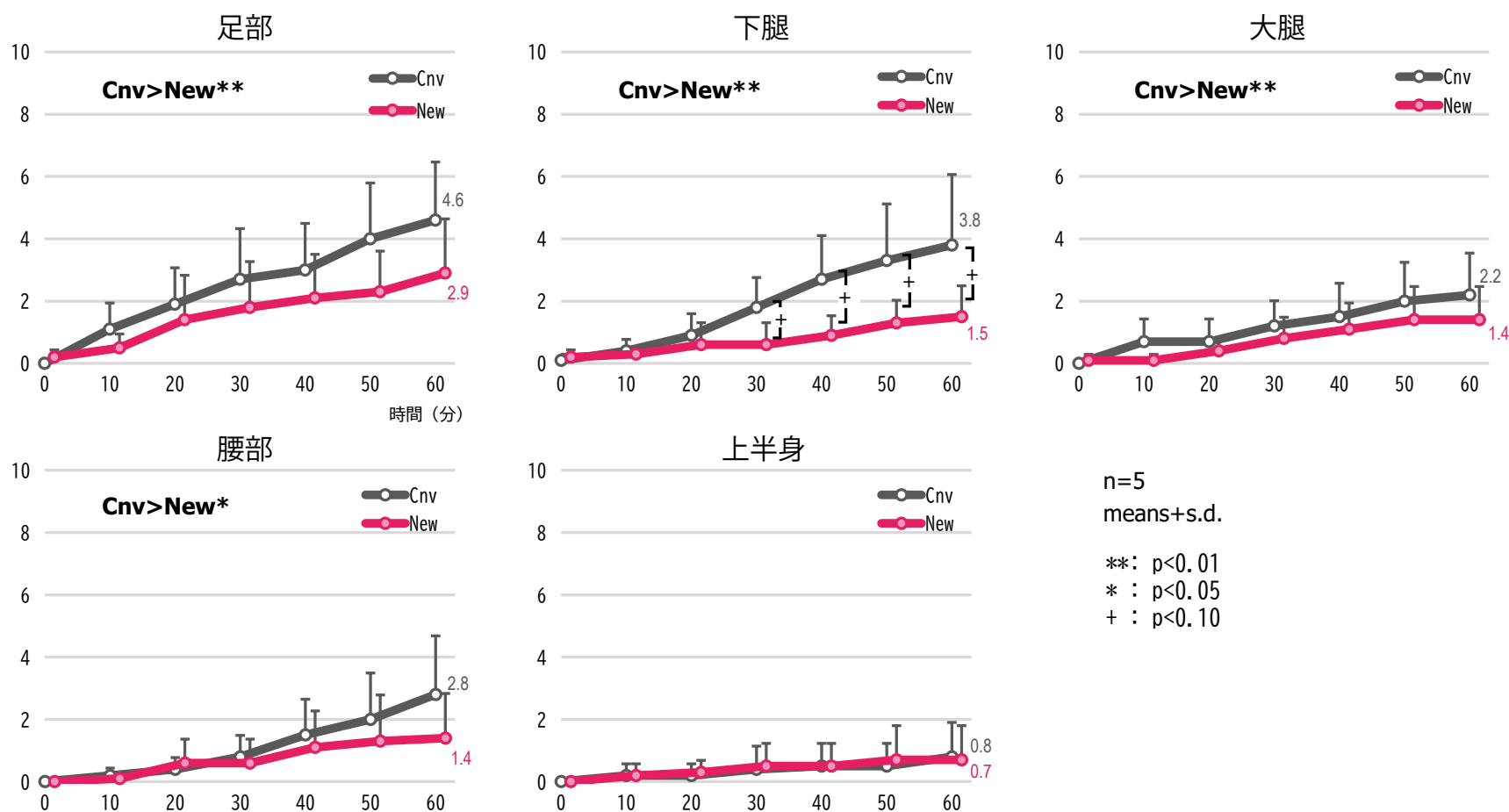
04 stand.ez 疲労軽減性能の多角的な評価試験



HIROSHIMA KASEI, LTD.

図 1. 主観的身体負担度 (Borg スコア) の経時変化

開発品は、従来品より、足部、下腿、大腿、腰部の自覚的疲労・痛みスコアは有意に低い。

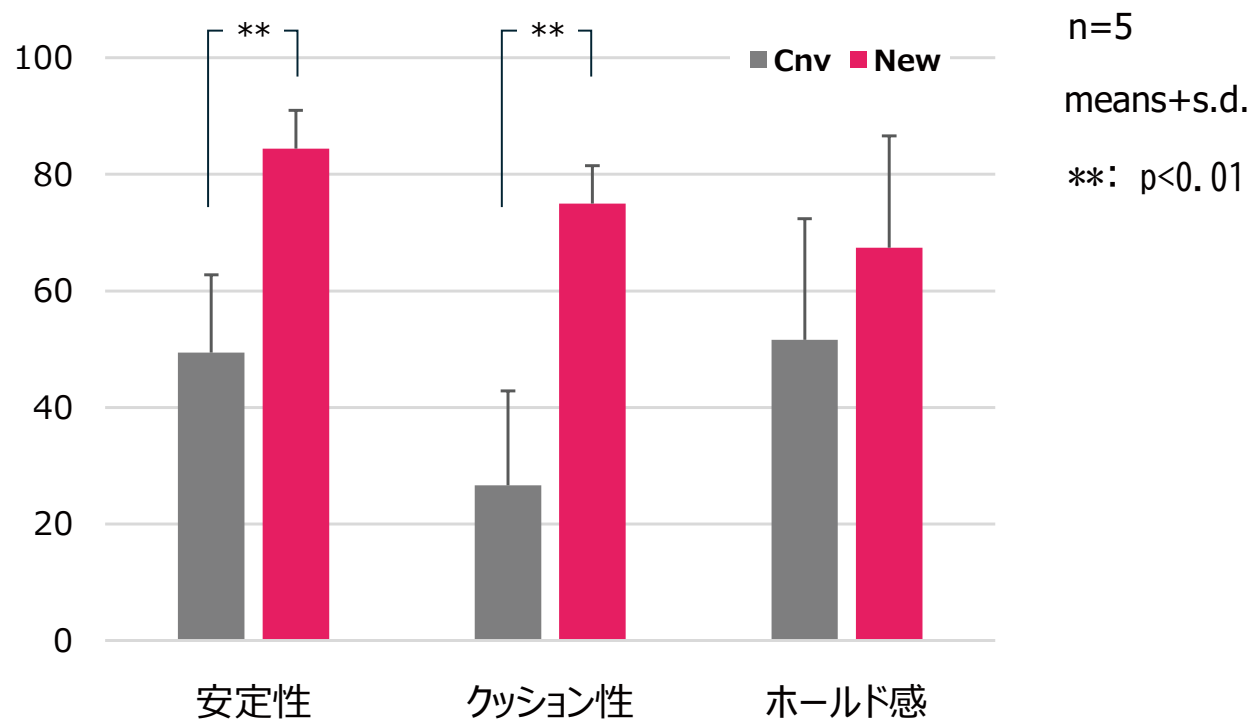


■靴の主観評価 (評価データ 2) – 結果と考察

- 図2(P. 22)に靴機能の印象の結果を示す。
- シャピロ・ウィルク検定にて正規分布に従う結果を得たため、対応のある t 検定により、シューズ条件間の平均値の差の検定を実施した。開発品は、従来品より、「安定感」及び「クッション感」の印象スコアは、有意に高い結果が得られた。ホールド感は有意な差が見られなかった。

図 2. 靴の主観評価 (靴機能の印象)

開発品は、従来品より、「安定感」、「クッション感」の印象スコアは、有意に高い。



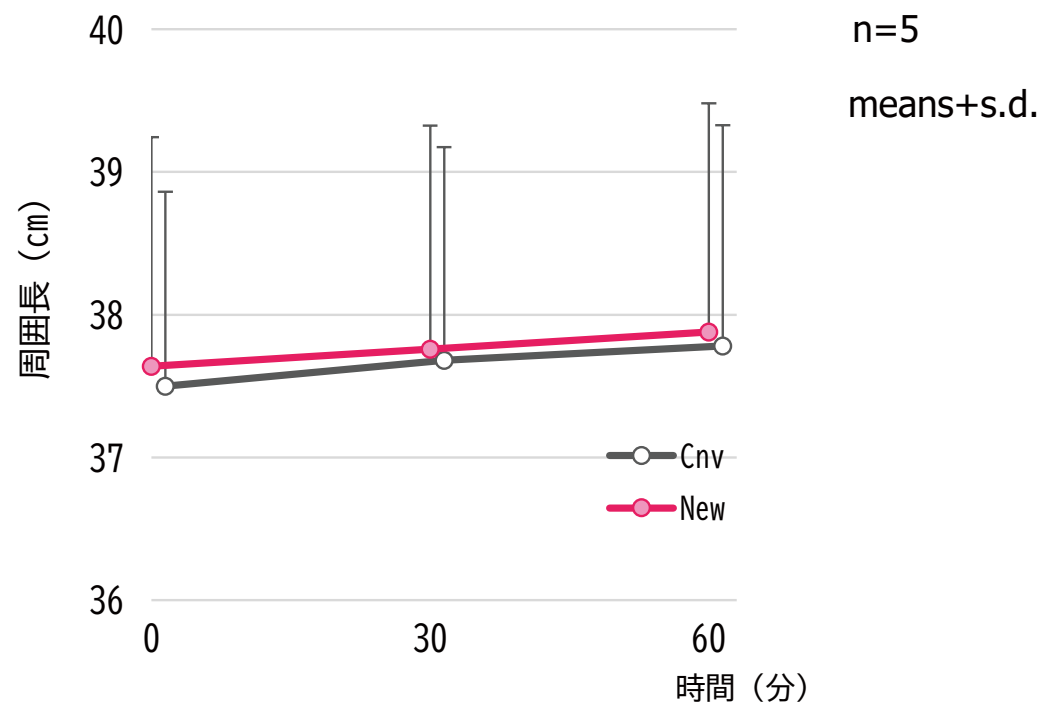
■ 下腿周囲長計測 (評価データ 3) — 結果と考察

- 図3(P. 24)に下腿周囲長の結果を示す。
- シャピロ・ウィルク検定にて正規分布に従う結果が得られなかったため、主観的疲労度の手順と同様の検定を実施した。靴条件、時間条件とも有意な差は得られなかった。

04 stand.ez 疲労軽減性能の多角的な評価試験

図 3. 下腿周囲長の変化

靴条件、時間条件とも有意差なし。



Ⅰ 重心動揺計測 (評価データ 4) — 結果と考察

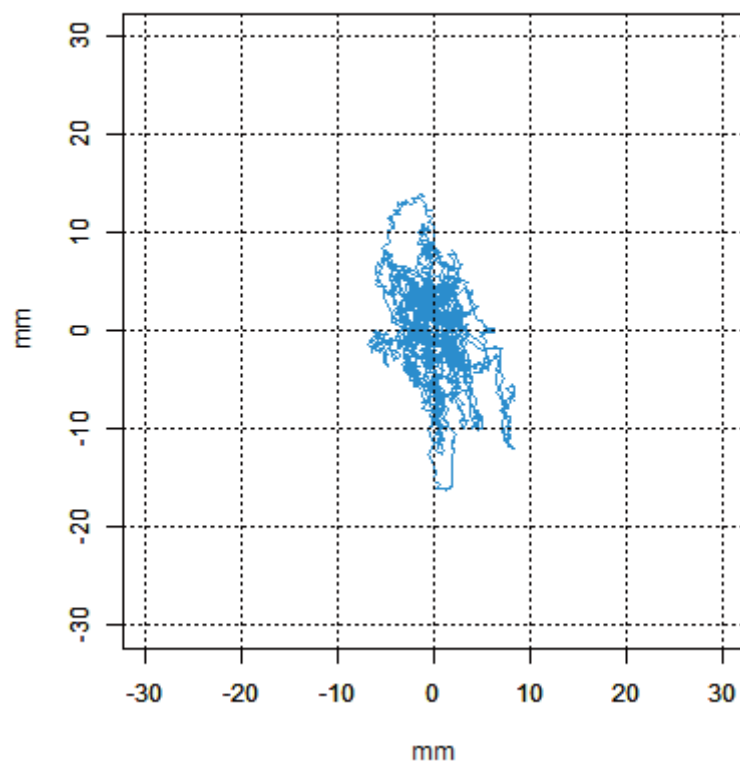
- 図4(P. 26)に足圧位置(重心動揺)の軌跡の例を示す。図5(P. 27)に両足閉眼条件での結果、図6(P. 28)に片足開眼条件の結果を示す。なお、両足閉眼条件において、1名のデータにノイズが混入していたため、この対象者のデータは両足閉眼条件の解析に利用していない。
- 得られた足圧中心座標から、振幅(左右、前後)、変位速度(左右、前後)、矩形面積、総軌跡長を求めた。
- 評価項目ごとのデータに対してシャピロ・ウィルク検定を行い正規性が認められなかったため、靴条件間の差の検定はWilcoxon順位符号付き検定を実施した。その結果、どの評価項目においても靴条件間に有意な差は得られなかった。
- ただし、片足開眼条件で、振幅(前後、左右)と矩形面積の項目にて、5名中4名は、開発品の方が従来品より値が低い結果であった。

04 stand.ez 疲労軽減性能の多角的な評価試験

図 4. 足圧位置 (重心動揺) の軌跡の例

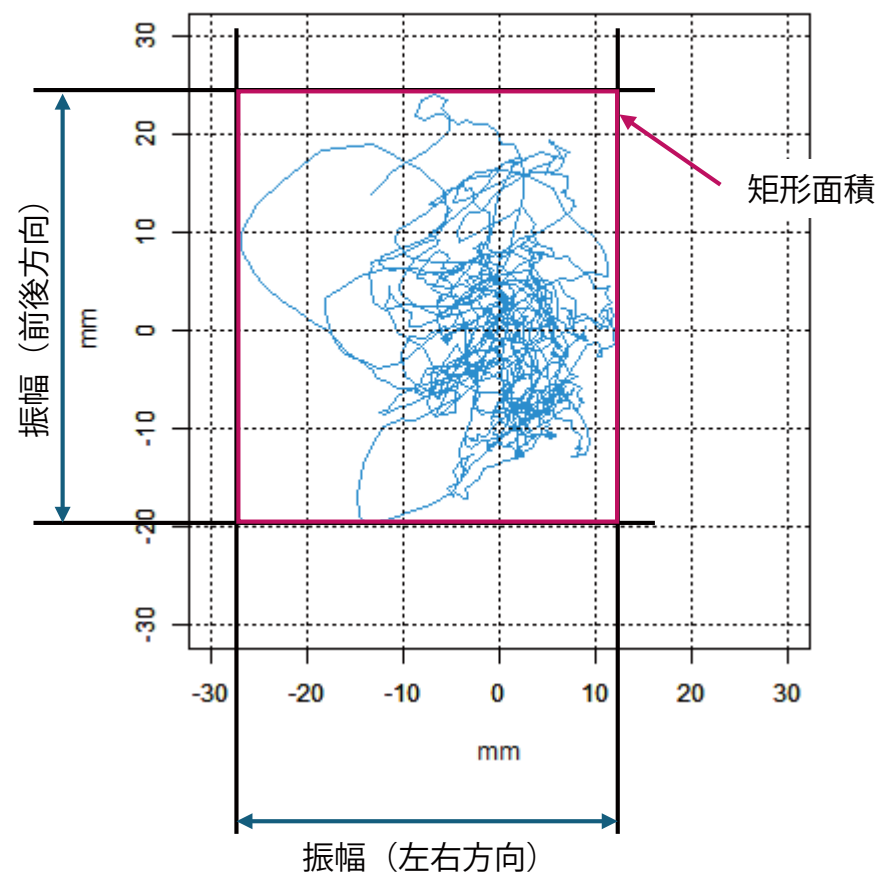
Aさん 開発品 【両足】

閉眼 計測時間60秒



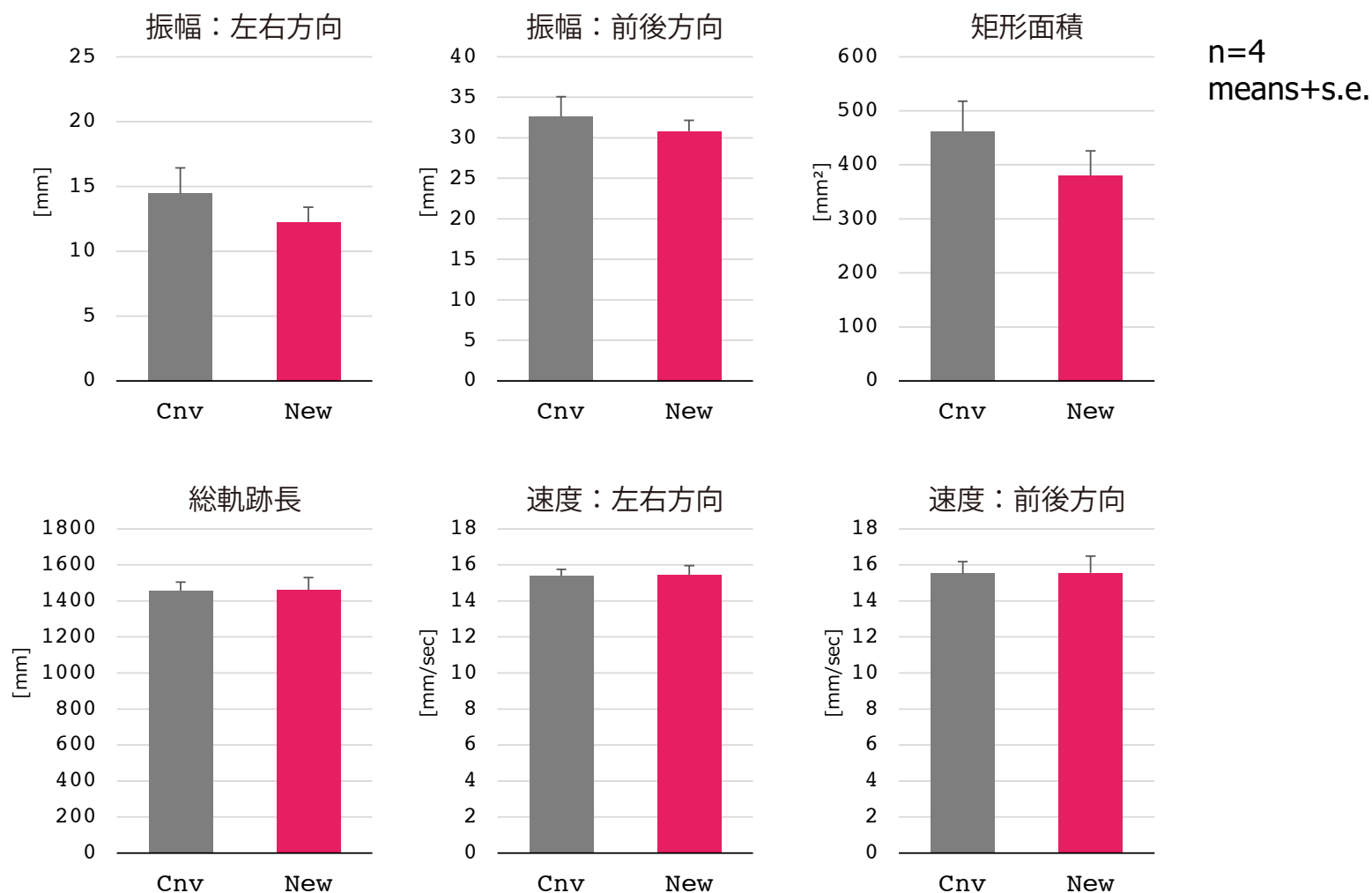
Aさん 開発品 【片足】

開眼 計測時間30秒



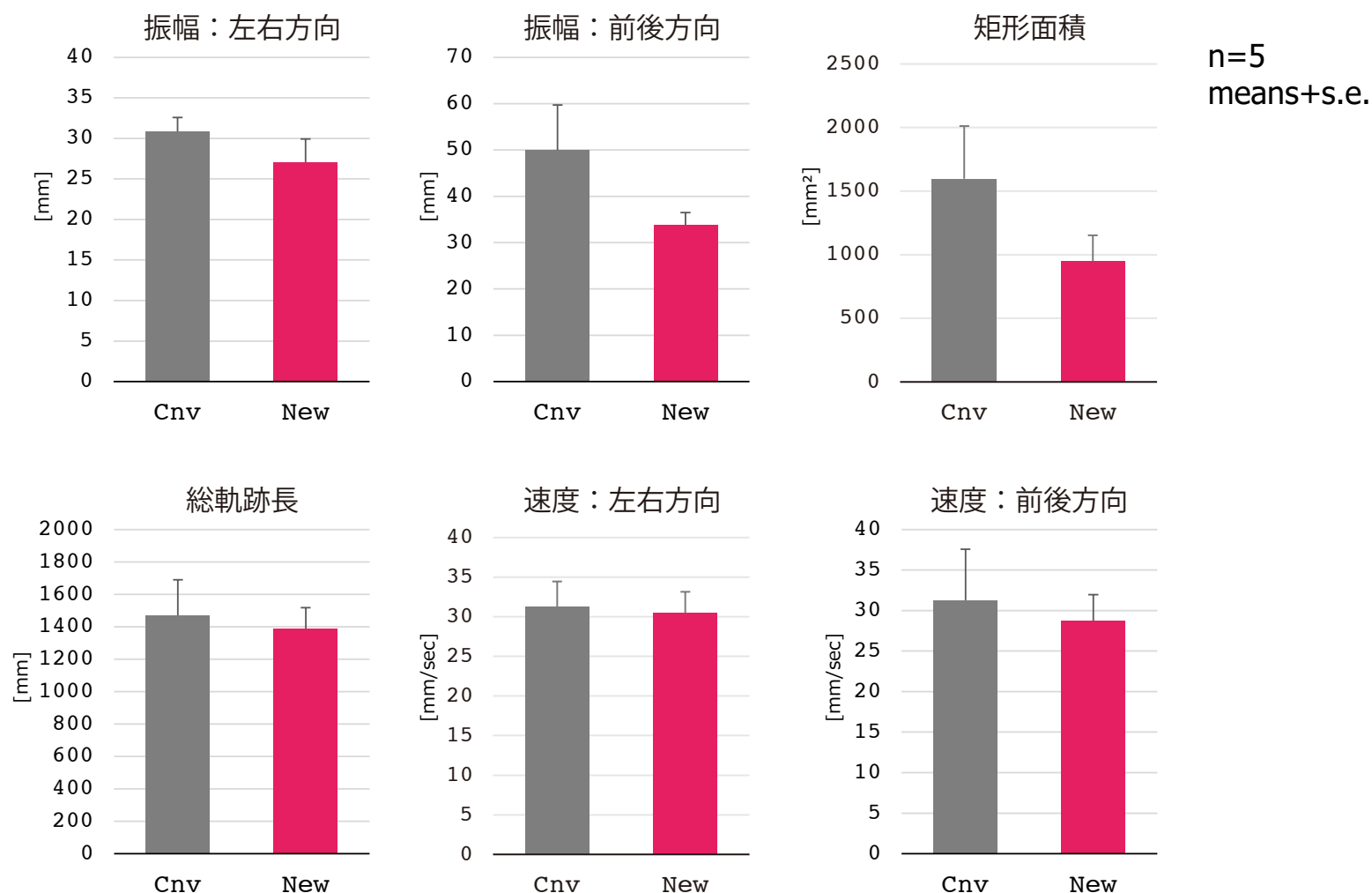
■ 図 5. 足圧中心の変位 (重心動揺) : 両足立位、閉眼時

靴条件間に有意差なし。



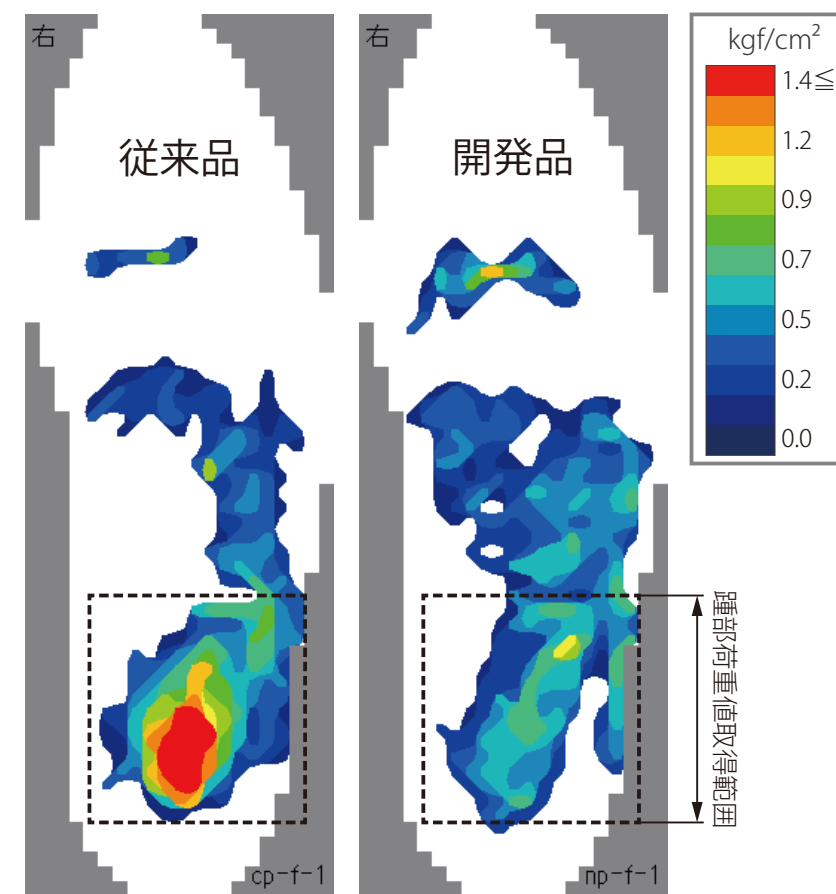
■ 図 6. 足圧中心の変位 (重心動揺) : 片足立位、開眼時

靴条件間に有意差はないが、振幅・矩形面積において開発品の重心動揺の範囲が狭い傾向が見られる。



■ 足圧分布計測 (評価データ 5) — 結果と考察

- 図7は、同一被験者の足底圧分布を用いて荷重状況の視覚比較を行ったものである。下段には、n=3の平均値として荷重面積および踵部荷重とその増減率を示す。
- 開発品では、足圧が中足部にまで広がり、荷重の分散が促進されている様子が確認された。
- 従来品に比べ、開発品の足底への接触面積が11.1%増加し、踵部範囲における荷重値は11.4%減少した。
- 荷重面積の増加と踵部荷重の減少傾向が見られたが、正規性の検証は行っておらず、記述統計に基づく傾向として評価している。



	従来品	開発品	増減率
荷重面積(cm ²)	90.8	102.1	+11.1%
踵部荷重(kgf)	16.3	14.4	-11.4%

mean (n=3)

図7. 足圧分布の視覚比較および荷重計測結果

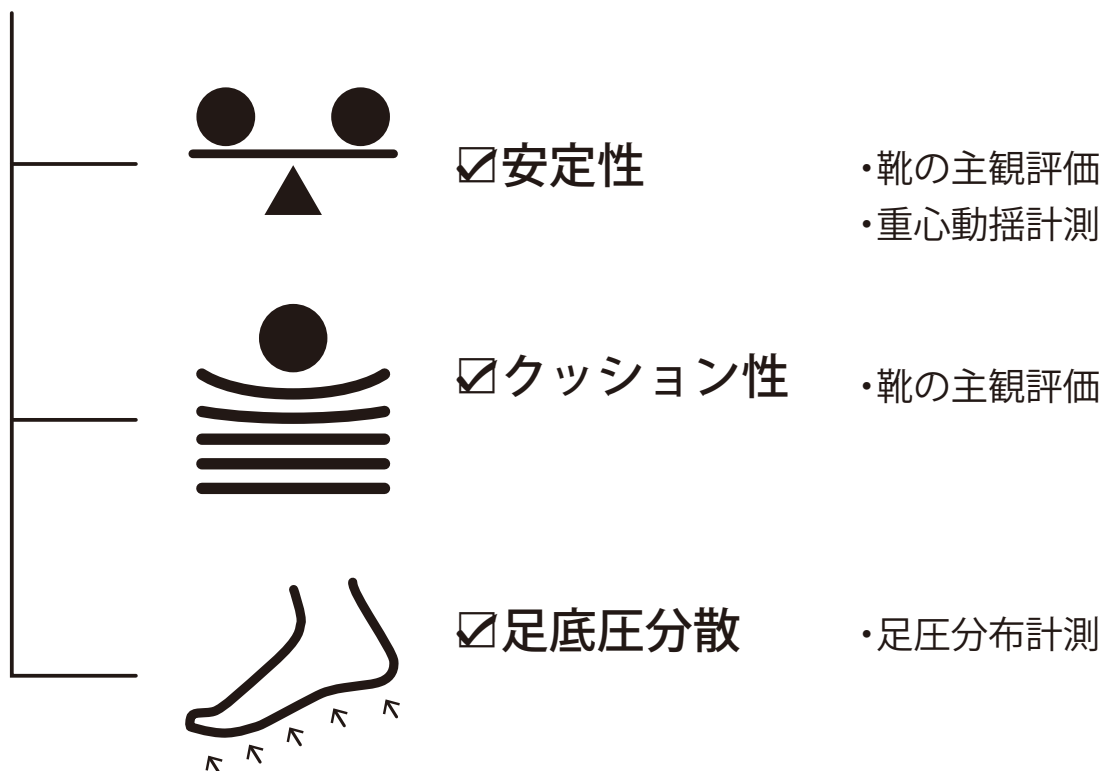
04 stand.ez 疲労軽減性能の多角的な評価試験

外部・社内試験の評価傾向総括

- 解決要素: 安定性・クッション性・足底圧分散がそれぞれ有効であること、ならびに課題であった安定性とクッション性の両立が実現されていること、そして、これらの要素が“立位時の疲労軽減”にも寄与していることを確認し、開発品が所定の機能要件を満たしていることを実証しました。

☑疲労軽減（疲労・痛み・だるさ）

・主観的負担度評価



05 stand.ez モニターテストによる最終評価

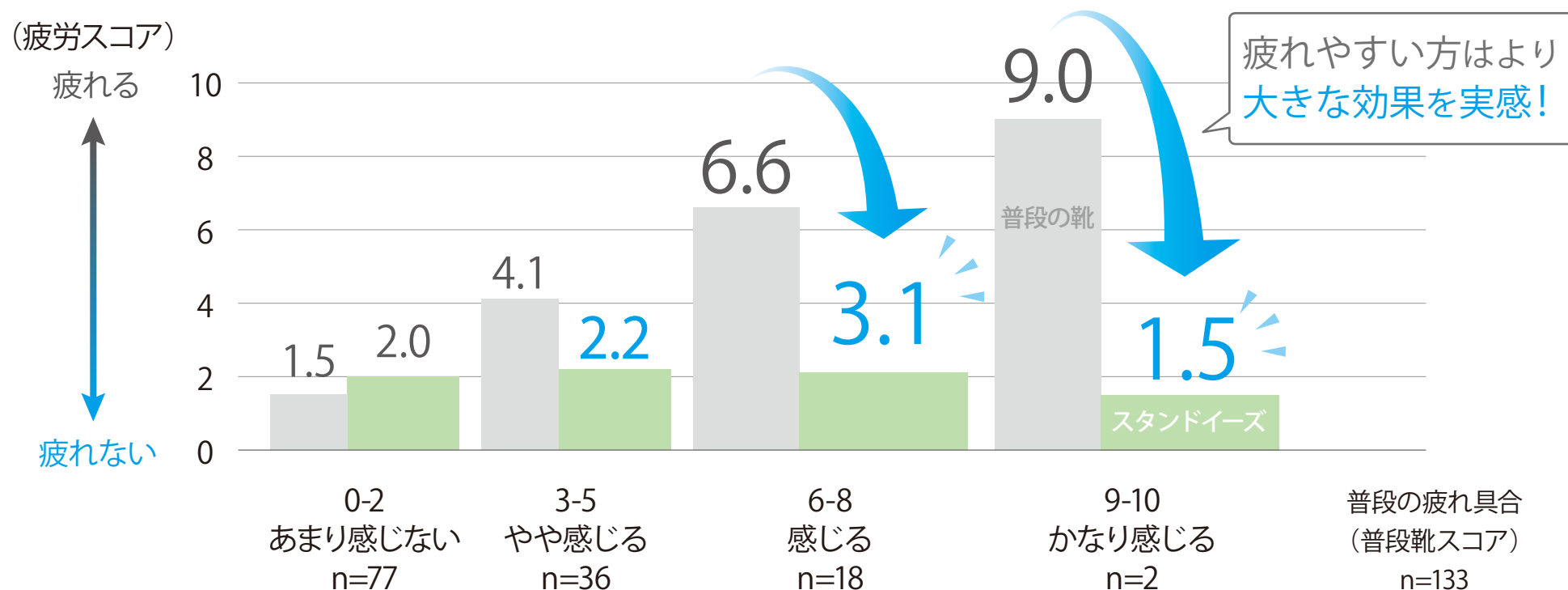


HIROSHIMA KASEI, LTD.

モニターテスト集計結果の概要

- 133 名中71 名 (53.4%) がスタンドイーズで楽になったと回答
- 普段の靴で疲れを感じている方 (※普段靴スコア 3 以上) 56 名の内 80.4% が楽になったと回答

普段履いている靴で感じていた疲労感がスタンドイーズで大きく改善



05 stand.ez モニターテストによる最終評価

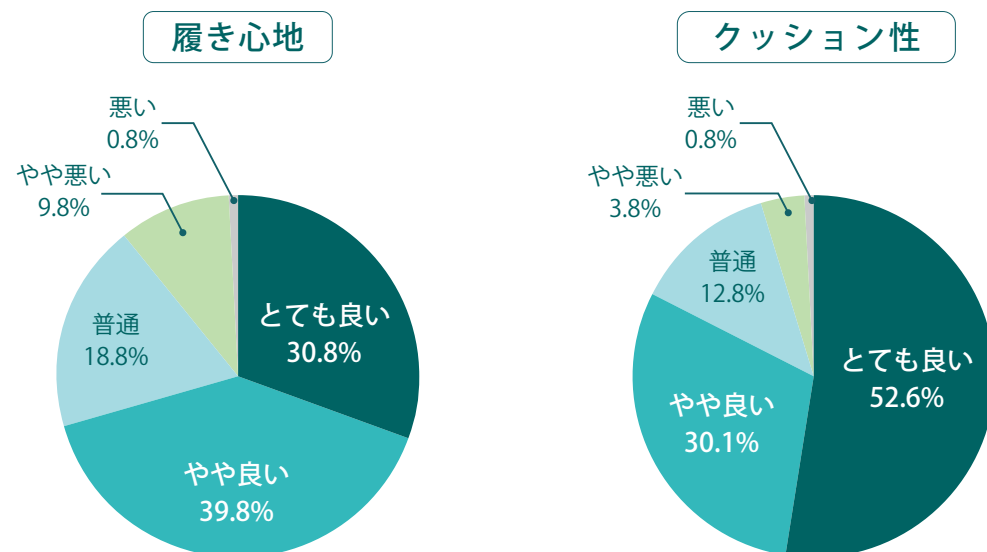


HIROSHIMA KASEI, LTD.

モニターテスト集計結果の概要

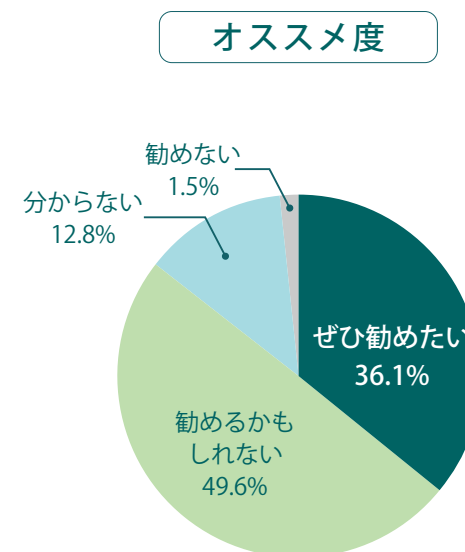
使用感への高評価と高い推奨意向

履き心地・クッション性ともに高評価



「普段履いている靴」と「スタンドイーズ」の着用感比較 (n=133)

80% 以上が人に勧めたいと回答



家族・友人へのおすすめ度 (n=133)

05 stand.ez モニターテストによる最終評価

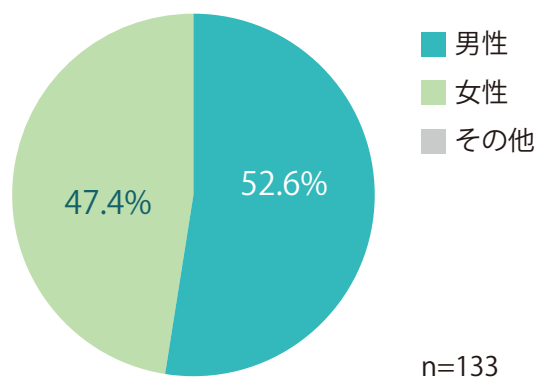


HIROSHIMA KASEI,LTD.

モニターテスト集計結果

1. 性別

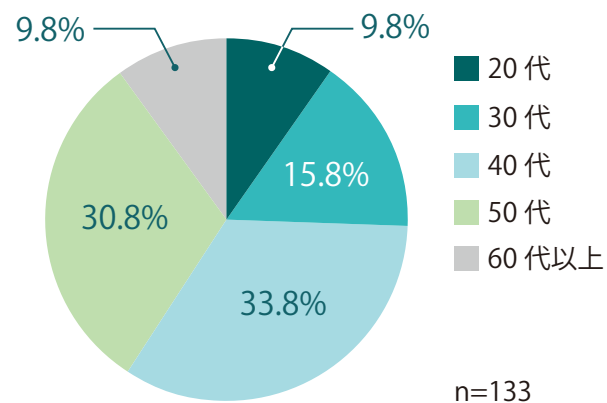
分析メモ：男女比ほぼ同率



選択肢	回答数	割合
男性	70	52.6%
女性	63	47.4%
その他	0	0.0%

2. 年齢

分析メモ：40-50代のアクティブ世代回答が多数を占める



選択肢	回答数	割合
20代	13	9.8%
30代	21	15.8%
40代	45	33.8%
50代	41	30.8%
60代以上	13	9.8%

05 stand.ez

モニターテストによる最終評価

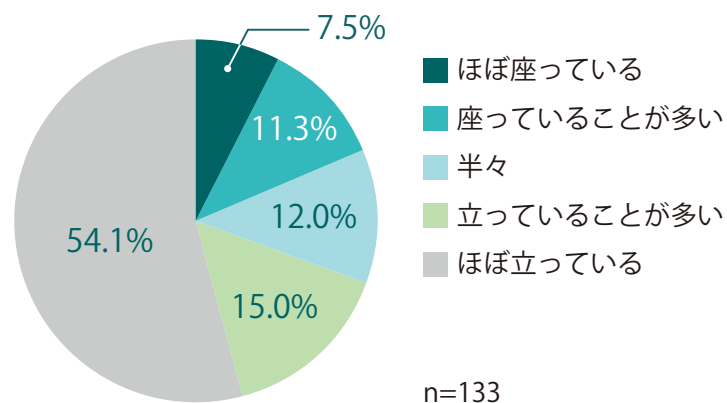


HIROSHIMA KASEI,LTD.

モニターテスト集計結果

3. 就業中の立ち・座り頻度

分析メモ：立ち系の回答者多数



選択肢	回答数	割合
ほぼ座っている	10	7.5%
座っていることが多い	15	11.3%
立ち・座り 半々	16	12.0%
立っていることが多い	20	15.0%
ほぼ立っている	72	54.1%

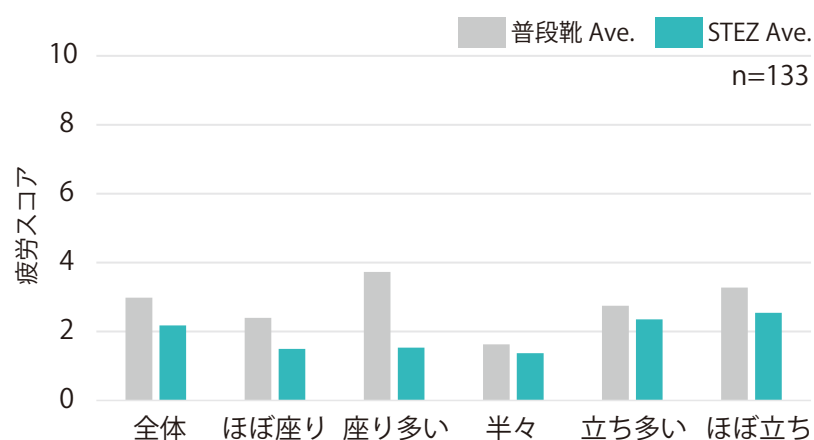
4. 普段着用している靴について

※質問設計の都合により本結果は掲載を割愛します。

モニターテスト集計結果

5. 全体傾向と就業状況別（立ち／座り）の疲労感比較

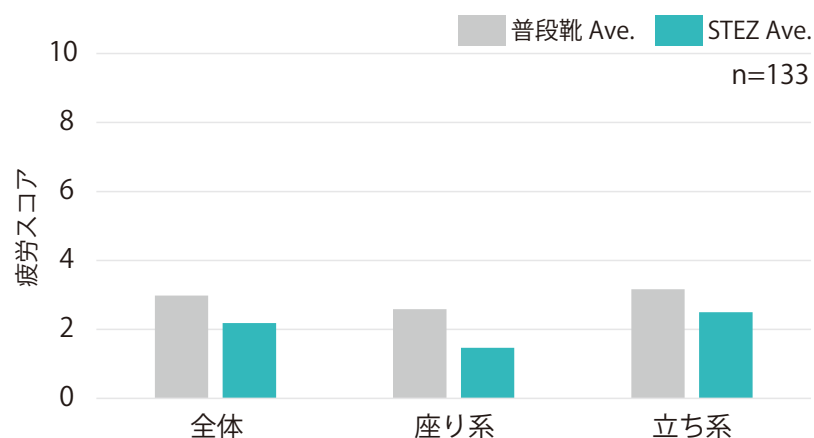
分析メモ：全体で疲労減少傾向



使用シーン	回答数	普段靴 Ave.	STEZ Ave.	減少率
全体	133	3.0	2.2	27.0%
ほぼ座っている	10	2.4	1.5	37.5%
座っていることが多い	15	3.7	1.5	58.9%
立ち・座り 半々	16	1.6	1.4	15.4%
立っていることが多い	20	2.8	2.4	14.5%
ほぼ立っている	72	3.3	2.5	22.5%

5-1. 立ち系／座り系の2分類での疲労感比較

分析メモ：座り系の減少率が高い傾向



使用シーン	回答数	普段靴 Ave.	STEZ Ave.	減少率
全体	133	3.0	2.2	27.0%
座り系	41	2.6	1.5	43.4%
立ち系	92	3.2	2.5	21.0%

※補足

座り系：ほぼ座っている / 座っていることが多い / 立ち・座り半々

立ち系：立っていることが多い / ほぼ立っている

05 stand.ez モニターテストによる最終評価

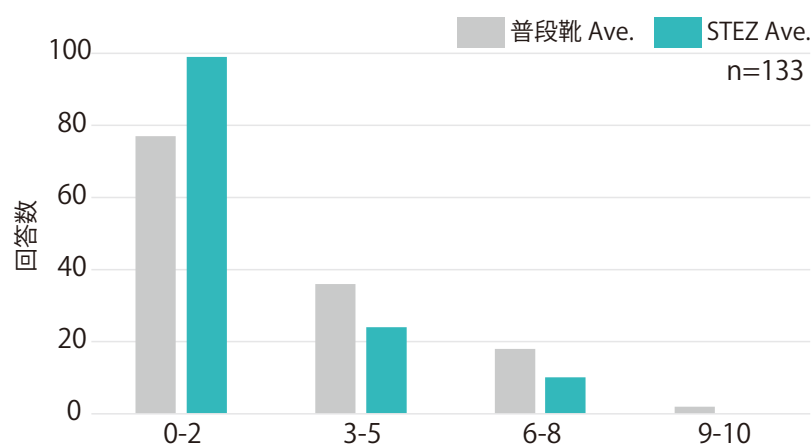


HIROSHIMA KASEI, LTD.

モニターテスト集計結果

5-2. 疲労スコア帯ごとの回答者分布

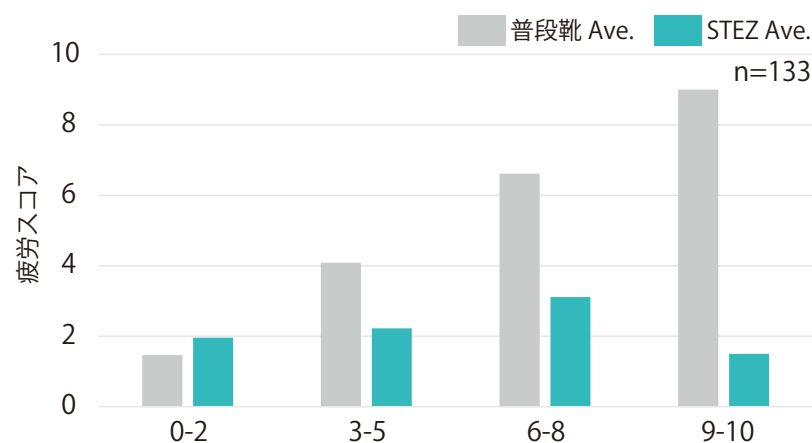
分析メモ：STEZ の疲労スコアが低い区分（0-2）に回答が集中



スコア帯	普段靴 回答数	STEZ 回答数
0-2	77	99
3-5	36	24
6-8	18	10
9-10	2	0

5-3. 普段靴スコア帯ごとの疲労感比較

分析メモ：普段靴の疲労度が高いほど減少幅が大きい傾向



普段靴のスコア	回答数	普段靴 Ave.	STEZ Ave.	減少率
0-2	77	1.5	2.0	-33.6%
3-5	36	4.1	2.2	45.6%
6-8	18	6.6	3.1	52.9%
9-10	2	9.0	1.5	83.3%

05 stand.ez モニターテストによる最終評価

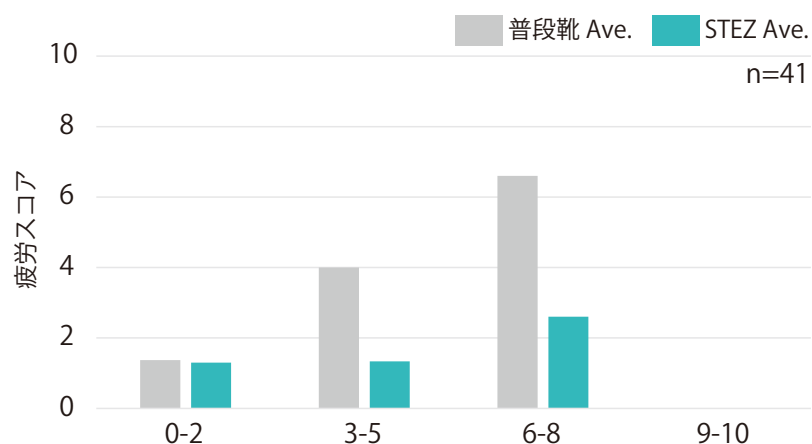


HIROSHIMA KASEI, LTD.

モニターテスト集計結果

5-4. 座り系 × スコア帯ごとの疲労感比較

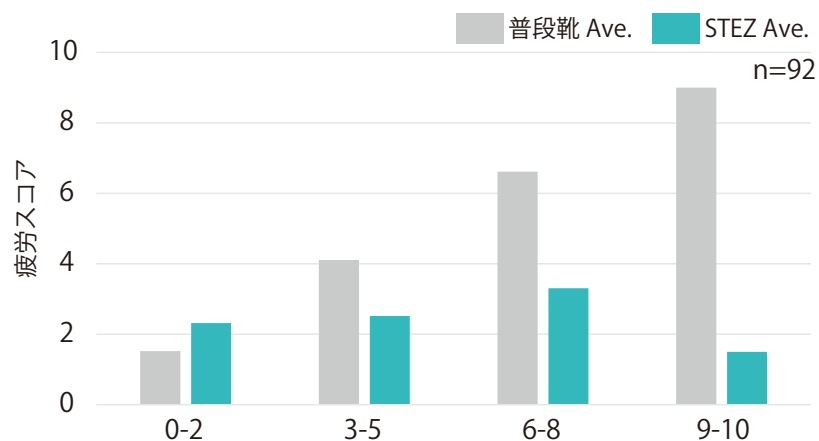
分析メモ：座り系の半数以上は普段疲れていない (0-2)、全体的に減少傾向



スコア帯 (普段靴)	回答数	普段靴 Ave.	STEZ Ave.	減少率
0-2	27	1.4	1.3	5.4%
3-5	9	4.0	1.3	66.7%
6-8	5	6.6	2.6	60.6%
9-10	0	-	-	-

5-5. 立ち系 × スコア帯ごとの疲労感比較

分析メモ：立ち系の半数は普段疲れていない (0-2)、普段靴の疲労度が高いほど減少幅が大きい傾向



スコア帯 (普段靴)	回答数	普段靴 Ave.	STEZ Ave.	減少率
0-2	50	1.5	2.3	-52.6%
3-5	27	4.1	2.5	38.7%
6-8	13	6.6	3.3	50.0%
9-10	2	9.0	1.5	83.3%

05 stand.ez モニターテストによる最終評価

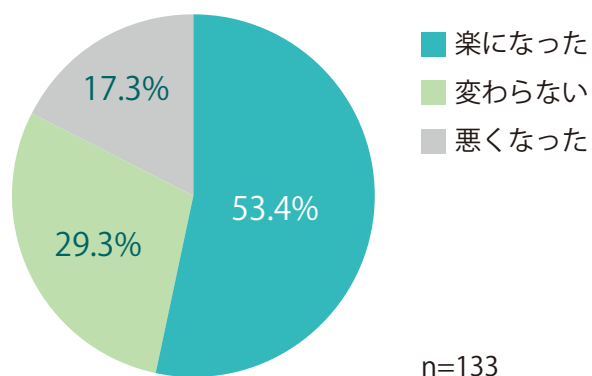


HIROSHIMA KASEI, LTD.

モニターテスト集計結果

5-6. スコアの変化（普段靴—STEZ）

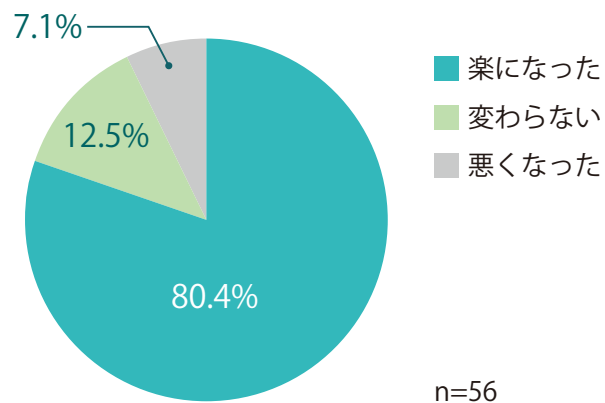
分析メモ：50% 以上が楽になった



疲労スコア変化	回答数	割合
楽になった (>0)	71	53.4%
変わらない (=0)	39	29.3%
悪くなった (<0)	23	17.3%

5-7. スコアの変化（普段靴—STEZ）※普段靴 3 以上

分析メモ：普段疲労を感じている多くが、STEZ で疲労スコア減少



疲労スコア変化	回答数	割合
楽になった (>0)	45	80.4%
変わらない (=0)	7	12.5%
悪くなった (<0)	4	7.1%

05 stand.ez モニターテストによる最終評価

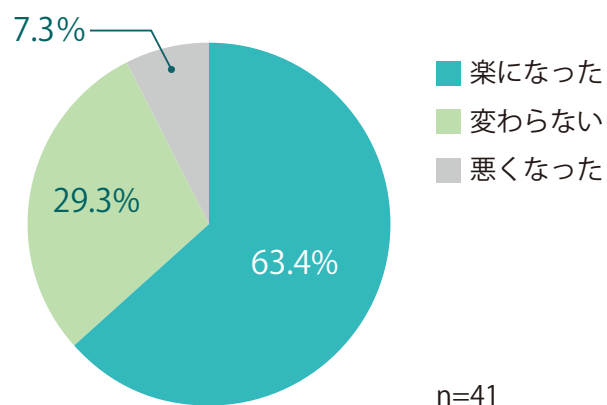


HIROSHIMA KASEI, LTD.

モニターテスト集計結果

5-8. 座り系のみのスコア変化

分析メモ：60% 以上が楽になった

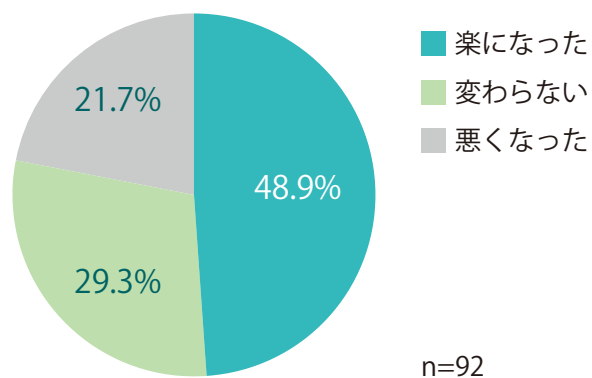


疲労スコア変化	回答数	割合
楽になった (>0)	26	63.4%
変わらない (=0)	12	29.3%
悪くなった (<0)	3	7.3%

5-9. 立ち系のみのスコア変化

分析メモ：約半数が楽になった

1/5 が悪くなったと回答

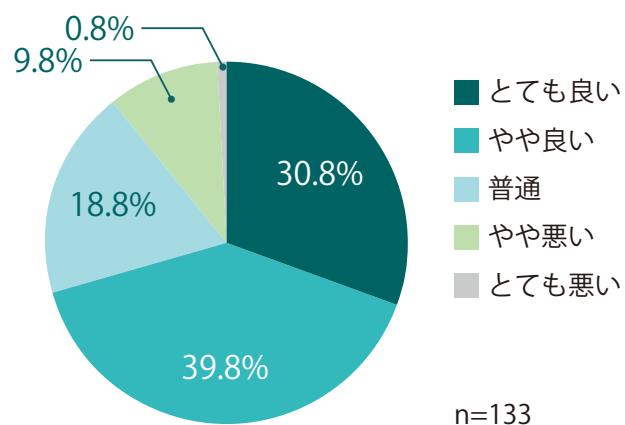


疲労スコア変化	回答数	割合
楽になった (>0)	45	48.9%
変わらない (=0)	27	29.3%
悪くなった (<0)	20	21.7%

モニターテスト集計結果

6. 履き心地の印象 (普段靴との比較)

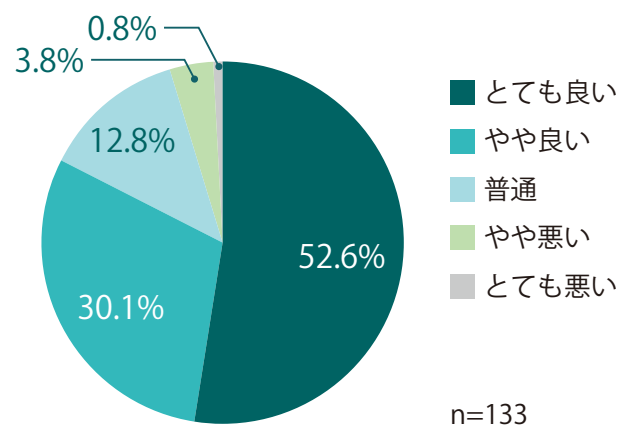
分析メモ：70% を超える好評価 (やや良い以上)



選択肢	回答数	割合
とても良い	41	30.8%
やや良い	53	39.8%
普通	25	18.8%
やや悪い	13	9.8%
とても悪い	1	0.8%

7. クッション感の評価 (普段靴との比較)

分析メモ：80% を超える好評価 (やや良い以上)



選択肢	回答数	割合
とても良い	70	52.6%
やや良い	40	30.1%
普通	17	12.8%
やや悪い	5	3.8%
とても悪い	1	0.8%

05 stand.ez モニターテストによる最終評価

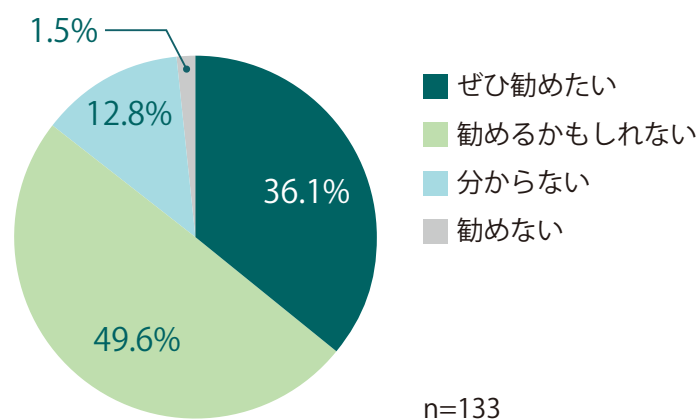


HIROSHIMA KASEI,LTD.

モニターテスト集計結果

8. 家族・友人へのおすすめ度

分析メモ：約 80% 以上が勧める意向

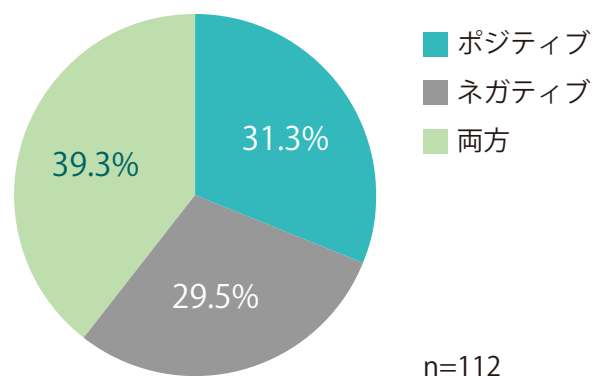


選択肢	回答数	割合
ぜひ勧めたい	48	36.1%
勧めるかもしれない	66	49.6%
分からない	17	12.8%
勧めない	2	1.5%

モニターテスト集計結果

9. 自由意見の評価傾向 (ユーザーの声)

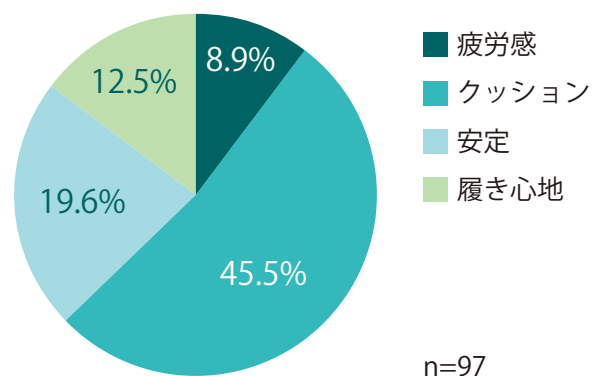
分析メモ：意見が分かれ、使用環境や個人差により評価が揺らぐ傾向



分類	回答数	割合
ポジティブ	35	31.3%
ネガティブ	33	29.5%
両方	44	39.3%

9-1. 自由意見：ポジティブ中の機能ワード出現数

分析メモ：好評価の中でもクッション性への言及が頻出



* コメント内重複有

分類	出現数	割合
疲労感	10	8.9%
クッション	51	45.5%
安定	22	19.6%
履き心地	14	12.5%

■モニターテスト集計結果

9-2. ポジティブなコメント抜粋

分析メモ：姿勢、腰痛、外反母趾など予期しない効果に関するコメントあり

□疲労軽減・履き心地に関するコメント

- ・ずっと立っていても疲れを感じにくかった。
- ・長時間、歩き回っても普通の靴よりも疲れを感じ難かった。
- ・動きやすくて疲れにくいので、本当に心地良いです。
- ・立っている時間が長くても疲れを感じることなく履けて良かったです。
- ・軽くて履き心地が良いです。
- ・足にピッタリ合って、動きやすくて疲れにくい。
- ・とても軽い履き心地。

□クッション性・安定感に関するコメント

- ・クッション感と安定感をどちらも感じられて不思議な履き心地。
- ・インソールのふわふわ感が気持ちよい。
- ・足を入れた瞬間から感じるクッション性の良さが印象的。
- ・靴底の外側にある丸の部分がしっかり足を支えてくれる。
- ・左右のブレがなく安定感がある。
- ・履いた瞬間から包み込まれるようで吸い付いてくる感じがして安定感が抜群です。
- ・ミッドソールの柔らかさに反して安定感を感じます。

□特徴的・印象的なコメント

- ・「靴の中のクッションが柔らかいのに、歩いていてもグラグラする感じがなくて快適。」
- ・「足を入れた瞬間から感じるクッション性の良さがとても印象的でした。」
- ・「柔らかさだけが特徴のシューズでは不安だった“安定性”の点もこの靴は心配が無い。」
- ・「姿勢が良くなって、腰痛が楽になった。」
- ・「私は外反母趾なのですが、ストレス無く快適に履けました。立ち仕事の方、外反母趾の方にはおすすめできる商品です」
- ・「左右のブレがない。安定感があり、疲れはありません。」
- ・「靴が軽く、歩きやすい。厚底で足が冷えない。」
- ・「靴底の外側にある丸の部分がしっかり足を支えてくれている感じがします。」



HIRO
SHIMA
KASEI

足元から愛されるモノづくり

